



## 高速道路はいつ頃からつくられてきたのですか？

高速道路は、1920年代半ばから現われはじめました。ドイツでは1933年、ヒトラーがアウトバーン建設を宣言し、諸外国に先駆けて高速自動車道の整備が進められました。

そもそもアウトバーンの歴史は、ベルリンのAVUS（自動車交通実験道路）にさかのぼります。1912年にAVUSの建設が開始され、第一次世界大戦で一時中断したものの、1921年に完成しました。この道路は当時の最新の技術基準によってつくられ、その後のアウトバーン建設と自動車技術の発展に大きく貢献しました。AVUSは、拡幅改良されているものの、今でもベルリン市の幹線道路の一部として立派に機能しています。

アメリカで最初に高速道路の建設に着手したのは、ペンシルバニア州でした。州議会の承認によってはじめられた延長257kmのペンシルバニア・ターンパイクは、連邦事業省からの雇用促進のための交付金も得て、1940年10月1日に開通しました。この道路は、中央分離帯をもちインターチェンジ以外では出入りできない本格的な高速道路でした。

一方、日本では高速道路という言葉は1940年代から使われ始めました。ドイツやアメリカの高速道路の影響を受け、昭和15（1940）年、「紀元2600年」の国をあげてのお祭りもあって、日本の高速道路の歴史がスタートしました。この年に始まった調査は、3年後の昭和18（1943）年には「全国自動車国道網計画」としてまとめられました。

この自動車国道網計画は、全路線計画が5490kmにも及ぶ本格的なものです。その骨格は青森から下関まで、太平洋岸と日本海側をそれぞれ走る1本ずつの幹線で構成され、その間を何本かの横断道が走るという計画で

した。

なかでも、優先度の高い東京～神戸間については昭和18(1943)年にさらに詳細な調査が開始され、特に名古屋～神戸間は具体的に設計が行われ、工事予算請求の動きすらありました。しかし、戦局の悪化によって昭和19年には調査は打ち切れ、そのまま終戦の日を迎えたのでした。

戦後、国土の復興がなされていくなかで、戦災や財源不足から荒廃した道路の整備は厳しい状況に置かれていましたが、昭和26(1951)年に建設省(当時)は高速道路の調査を再開し、昭和29(1954)年には戦前に内務省が構想した「全国自動車国道網計画」を参考に「東京～神戸間高速有料道路建設計画書」が作成されました。

このような動きのなかから、同年「第一次道路整備五カ年計画」が策定され、さらにその後の高速道路整備に関する種々の法律の成立を経て、わが国も本格的な高速道路時代を迎えることになったのです。

#### Topic ～ワトキンス調査団の名言～

昭和31(1956)年、東京～神戸間高速道路の調査に訪れた世界銀行の調査団長、ラルフ・J・ワトキンスは「日本の道路は信じがたいほど悪い。世界の工業国にしてこれほど道路を無視してきた国はない」と指摘し、この名言をきっかけに日本政府は五カ年計画の規模を3倍増としました。